

都市構造可視化の活用 ～計画検討及び説明ツールとして～

旭市都市整備課



i-都市交流会議2020

1

1.都市構造可視化研修参加目的は？

＜今後予定している都市計画変更手続き＞

- ・用途地域指定に係る都市計画変更（令和元年度）
- ・都市計画区域マスタープランの見直し（令和2年度）

◎H31年3月 千葉県都市協会 特別講演会に参加

可視化ツールの説明があり、そこで初めて可視化ツールの存在を知る。
⇒都市構造を「見える化」することにより、**都市の現状や課題を視覚的・直感的に把握できる**との説明を聞き、都市計画を検討するうえで必要と感じていた「まちのかたち」のイメージを描くための有意義な手段となると感じた。

i-都市交流会議2020

2

2.活用できるデータは何か検討してみた

班内で可視化ツールについて情報共有を図るとともに、実際に操作しながらツールの有効利用方法を検討した。



i-都市交流会議2020

3.活用したのは。。。①

都市計画変更（用途地域指定）の検討ツールとして活用

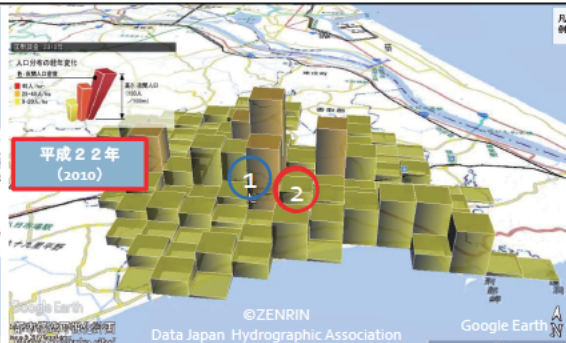
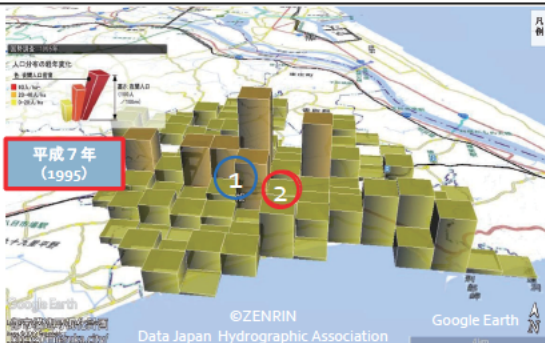
●人口分布の経年変化を確認しながら、用途について検討

①用途地域指定予定地周辺は既定の第1種中高層住居専用地域があり、閑静な住宅地として宅地分譲が進み人口が増えている。

②用途地域指定予定地は、①と隣接していることもあり、まちなみの様相が一体的となっており、人口も微増傾向にあることがわかる。

③当該地域は、千葉県の北東部において核となっている国保旭中央病院という大型病院が立地し、市の総合戦略でも「医療・福祉拠点地区」として位置づけしていることから、高齢化社会を見据えた生活拠点として注目されている地域である。

⇒第1種中高層住居専用地域として用途指定する方針



i-都市交流会議2020

4.活用したのは。。。②

都市計画変更（用途地域指定）に係る住民説明会実施時の資料として活用

タイトルページ



◎令和元年7月25日（木）
住民説明会実施

可視化ツール使用ページ



地域の特性と、将来予測を「見える化」したことで、当該計画についてわかりやすく市民に示すことができ、円滑に合意いただけた。

i-都市交流会議2020

5

5.実用してみて思ったこと

- 数値を平面でなく立体的に見ることによって、データの把握・周辺との比較ができるため、課題が見出しやすい。
- 様々な統計データを利用できるため、他部署でも有効活用できる可能性があるツールではないか。
- 3Dマウスの操作性が面白い。注目するメッシュに飛び込む感覚で、その場所に何があるか確認するという方法は、地域の状況を理解しやすく、見た目も面白いため、説明を聞く側を飽きさせない。説明会等での説明ツールとして使える。
- 市で保有しているGISデータとの連携ができるとよい。

i-都市交流会議2020

6

6.活用に向けて

庁内利用を進めていきたい

<都市構造可視化ツール>

さまざまな情報が視覚的に表示されることにより、市の実状と課題提起を客観的な視点で分析・展開できるツール

<課題①>

市保有データの連携
ができてほしい

<課題②>

職員個人のインター
ネット環境では利用で
きない

全庁利用

千葉県旭市

都市の紹介

●面積：13,045ha
うち都市計画区域：5,020ha
※平成17年7月に旧旭市、海上町、飯岡町、干潟町の1市3町で合併。

●人口（R1.12.1現在）：63,851人
うち男性：31,466人
女性：32,405人
世帯数：25,007世帯

●千葉県北東部に位置し、都心から80km圏、成田国際空港から25km圏。

平均気温が15℃前後と温暖で、冬は暖かく夏は涼しい恵まれた気候であり、農産物生産が盛んな地域。

首都圏における食糧供給基地として多くの役割を担っています（H29年農業産出額全国第5位）。

市の南部は美しい弓状の九十九里浜に面し、毎年多くの観光客にお越しいただいています。

今後、圏央道と接続する銚子連絡道路整備計画の進展により、都心からのアクセスが改善され、農水産業・商工業・観光業等の発展が一層期待される都市です。

